

# COPD 患者における長時間作用性抗コリン薬の呼吸機能改善効果と

## 吸入手技に関する検討 (15-04)

### 1. 研究の背景

COPD (Chronic Obstructive Pulmonary Disease : 慢性閉塞性肺疾患) の有病率や死亡率は高いレベルにある。今後患者数は増加すると予測されており、COPD は死因の第 4 位に位置づけられている。現在、COPD の薬物治療は気管支拡張薬が第一選択とされ、主に長時間作用性抗コリン薬が選択されている。長時間作用性抗コリン薬においては、吸入回数が 1 日 1 回タイプのチオトロピウム (スピリーバ®) が汎用されており、その有用性は高い評価を受けている。一方、2015 年 5 月に 1 日 2 回タイプのアクリジニウム (エクリラ®) が発売された。吸入器に対する患者ニーズを調査するアンケートでは、医師、患者双方より吸入器の操作性・利便性の向上を求める声が高かった。吸入回数に関しては医師の多くが 1 日 1 回を支持したのに対し、患者は回数よりも症状の改善を優先する割合が高いという結果であった。上記の背景より、1 日 1 回タイプのスピリーバ®と 1 日 2 回タイプのエクリラ®の比較試験を行い、両剤の呼吸機能改善効果と、吸入回数や吸入器の操作性・利便性を検討することで、今後の COPD 治療の発展に貢献できると考えられる。

### 2. 研究の詳細

本研究では、上記背景に基づき、長時間作用性抗コリン薬を使用した COPD 患者において、症状 (CAT、MRC) や呼吸機能の改善度、そして吸入器への患者評価を検証する。

### 3. 目標症例数と研究実施期間

チオトロピウム臭化物水和物 (スピリーバ®) からアクリジニウム臭化物 (エクリラ®) への切り替え投与群 20 症例

研究期間 : 2015 年 11 月 ~ 2016 年 10 月

### 4. 研究実施者及び連絡方法

研究責任者 地域医療機能推進機構金沢病院 内科 副院長 渡辺 和良

共同研究者 同病院 内科 診療部長 早稲田 優子

Tel : 地域医療機能推進機構金沢病院 (代表) 076-252-2200